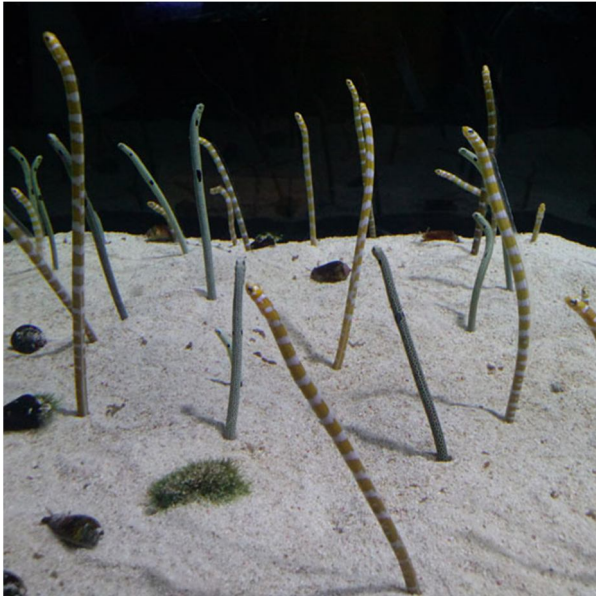


「すみだ水族館に行こう! (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

すみだ水族館一番の人気者は、たぶんこの生き物だろう。「チンアナゴ」と「ニシキアナゴ」である。



体の半分を砂の下にもぐらせて、上半分と顔だけを砂の上に出して、気ままにユラユラ揺れている。実にユーモラスで楽しい生き物だ。



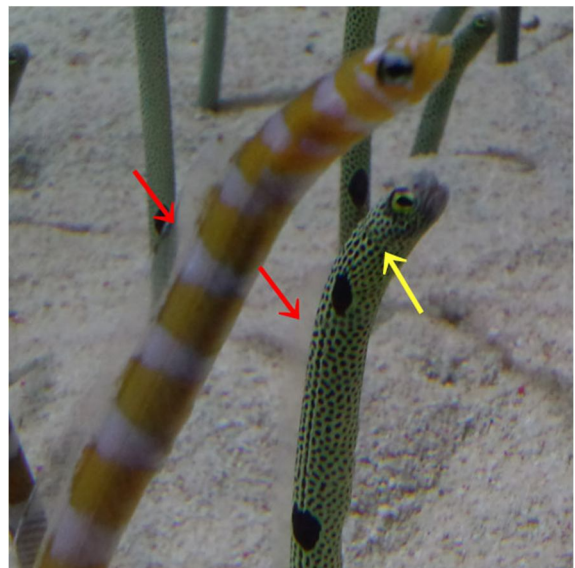
こちらが「チンアナゴ」*Heteroconger hassi* ウナギ目アナゴ科に属する。つまり「魚」である。チンアナゴの「チン」は犬の「チン」の意味だという。そういわれると、ちょっと顔が似ている気がする。

職場にダイビングをする人がいて、沖縄の海底でチンアナゴを見たことがあるという。天然のチンアナゴ

は、砂の上に1~2cmしか顔を出していなかったそうだ。水族館の水槽は、天敵もなく安全なので、常に体を出しきって、のんびりしているのだろう。



こちらは「ニシキアナゴ」*Gorgasia preclara* チンアナゴと近縁で、同じ水槽で仲良く暮らしている。いずれも南洋の砂海底に住み、海流によってくる動物性プランクトンを餌としている。時々お互いに「喧嘩」をするが、非常にゆったりとした喧嘩で、見た目は実に平和に見える。



チンアナゴもニシキアナゴも、もちろん魚(魚類)である。その証拠に背びれ(赤→)や鰓(黄→)がある。魚なのに、ほとんど砂の中で過ごし、遊離して泳ぐことはほとんどない。この生き物についても、水族館に行く前の理科の授業で、生態を詳しく話しておいた。あとから聞いたら「先生、チンアナゴ泳いでたよ!」「すごく長かった。1メートルぐらいあった!」(実際は40cm以下)やはり、なかなかの人気ぶりだ。